

ネズミのすもう

- むかしむかし、あるところに、びんぼうなおじいさんとおばあさんがいました。ある日のことです。おじいさんは山
- 5 にしばかりに行きました。すると、むこうの山のほうから、
「デカンショウ、デカンショウ」
という^{こえ}声が聞こえてきました。
「はて、ふしぎなことだ・・・」
- おじいさんはそう思って、その^{おと}音がする、むこうの山へ行
- 10 ってみました。むこうの山では、一匹^{いっぴき}のやせたネズミと、
一匹のふとったネズミが、おたがいにすもうをとっていました。
デカンショウ、デカンショウというのは、その二匹^{にひき}
が、ぶつかったり、^{ちから}力をいれておしあったりするときの
声だったのです。
- 15 しかし、木の^{あいだ}間からおじいさんが見ていますと、そのや
せたねずみは、おじいさんの家のネズミでした。よくふと
った力のありそうなネズミのほうは、^{ちやうじゃ}長者の家のネズミ
でした。しかも、長者のほうのネズミは、とても力がつよ
く、おじいさんのほうのネズミを、スッポンスッポン、^な投
20 げつけていました。それでも、おじいさんの家のネズミは、
なんどもなんども、とっかかって行きました。

- 5 しばかり=Reisig sammeln



- 10 やせた=dünn
ふとった=dick すもうをとる=Sumo machen
- ぶつかる =zusammenstoßen おしあう =sich gegenseitig
bedrängen
- 15 Grundbesitzer (der Reichste im Dorf)
- 投げつける=werfen, zu Boden strecken
- 20 なんどもなんども=immer wieder
とっかかる = auf jmdn. losspringen

おじいさんは、そのじぶんのほうのネズミが、とてもかわいそうになってきました。それで、しばをかるのもわすれて、さっさと、家に帰ってきました。

さっさと=sofort

そして、おばあさんにいいました。

5 「おばあさん、おばあさん、山でわたしはずいぶんかわい
5 そうなことを、見てしまった。うちのネズミが、長者さん
の家のネズミとすもうをとって、スッポンスッポンなげら
れていた。あまりかわいそうだから、もちでもつくって食べ
させようと、そうかんがえてかえってきた。」

もち=Reiskuchen

10 これをきいて、おばあさんも、
10 「それはよいことを考えました。では、さっそくもちをつ
くって、うちのネズミに食べさせてあげましょう。」
そういつて、二人はすぐもちをつくる用意にとりかかりま
した。

15 「ペッタンコー、ペッタンコー」
15 もちはまもなくできあがりました。すると、おばあさんは
ネズミが食べやすいように小さいもちを作って、それをた
くさんとだなのおくの、ネズミの出てくるところに、おいて
おきました。

20 「さあ、ここにおいておきますよ。このもちを食べて、明日
20 のすもうには、きっとかっってくださいな。」

そこにネズミはいませんでした。おばあさんはそんなことをいいました。しかし、その晩、ネズミはたくさんもちを食べました。

5 その次の日です。おじいさんがしばかりに行くとき、前の日のように、デカンショウ、デカンショウという声がしています。その声のほうに、山の奥へ行ってみたら、昨日のネズミが、今日もすもうをとっていました。おじいさんは昨日どおり、木の間からそれを見物しました。するうちのネズミは、一晩のうちに、とてもつよくなっていました。でも、長者のネズミもつよいですから、どうしても勝負がつきません。それで、ひきわけになって、二匹は左右にわかれしました。すると、長者のネズミがいました。

「どうして、お前は、一晩で、力がつよくなったのだ。」
おじいさんのネズミがいました。

15 「じつは、おれは、昨日の晩、もちをたくさんもらって食べたんだ。だから、力がつよくなった。」
これを聞くと、長者のネズミは、それをとてもうらやましがりました。

「おれも行くから、そのもちを、すこしくれないかい。」
20 というので、おじいさんのネズミは、
「おれのうちのおじいさんも、おばあさんも、本当はたい

5

見物する=besichtigen

一晩のうちに=über Nacht

10 勝負がつかない=Das Spiel bleibt unentschieden.

ひきわけ=Remis

15

うらやましがる=beneiden

20

へん^{びんぼう}貧乏なので、なかなかもちをつくることのできないんだ。でも、お前^{まえ}がお金^{きん}をもって来るなら、もちをあげてもいい。」

と、いいました。

5 「それでは、お金をもっていくから、もちをごちそうしてくれよ。」

長者のネズミはいいました。

おじいさんはそんな話^{はなし}を聞^きいているうちに、なんだかたいへんおかしくなって、ついわらいだしそうになるのを、

10 じっとこらえて家に帰ってきました。そして、おばあさんにさっそくその話をして、二人で、ニコニコ笑^{わら}いました。

そして、その晩は、二匹分^{にひきぶん}のもちを作^{つく}って、とだなの奥^{おく}に、おいておきました。それにくわえて、そのそばに、赤^{あか}いふんどしを二本そろえておいておきました。小さいネズミの

15 ために、細^{ほそ}くて短^{みじか}いふんどしです。

ところで、それからまもなく、長者のネズミは大判^{おおばん}、小判^{こばん}をたくさん持^もって、そのとだなの奥^{おく}に来^きました。そして、そこにあるもちを食^くべて、お金をおいて、ふんどしをもらって帰^{かえ}っていきました。

20 さて、その次の日。おじいさんがいつものように、山へしばかりに行くと、今までよりも元氣^{げんき}で大きな声で、

5 ごちそうする=verköstigen

なんだか=irgendwie

つい=unweigerlich わらいだす=zu lachen beginnen

10 じっと=geduldig こらえる=unterdrücken

二匹分=für zwei

それにくわえて=dazu ふんどし=Lendentuch, Sumo-Mawashi

15

大判=Große Goldmünze 小判=Kleine Goldmünze

20

「デンカショウ、デンカショウ。」

と、すもうをする声が、聞こえてきます。それで、山の奥には行って、木の間から見てみました。そこでは、また、二匹のネズミが、昨日もらったふんどしをして、いっしょうけんめいすもうをしています。でも、二匹とも、本当につよくなっていて、この日も、いつまでたっても勝負がつかせません。おじいさんはみているうちに、おもしろくなって、つい声を出したり、手をたたいたりしたくなりました。でも、そんなことをしたら、ネズミがおどろいて、すもうをやめるだろうと思いましたから、がまんをして、しずかにすもうをみていました。

しばらくして、そのすもうは、ひきわけでおわりました。おじいさんは、おおいそぎで、家に帰ってきました。おばあさんが、すもうのことを聞くために、まっているからです。

おじいさんは家に帰って、その二匹のネズミが赤いふんどしで、すもうをしていたようすを、てぶりみぶりで、おばあさんに話しました。おばあさんはとてもよろこびました。おじいさんとおばあさんは、長者のネズミがおいていったお金のおかげで、大金持ちおおがねもになって、一生いっしょうしあわせなせいかつをおくりました。

いっしょうけんめい=fleißig, eifrig

いつまでたっても=ewig



おおいそぎで=in großer Eile

てぶりみぶりで=mit Gestik und Mimik